

社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

「育もう 地域の愛で 子どもの未来」～ 大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めます ～

「まだまだ暑いです」そんな声がが続いていますが、それでも朝夕は、耳を澄ますと花壇から聞こえる虫の音に秋を感じることができます。今年は9月17日が中秋の名月に当たるとのこと。月を愛でる風習は縄文時代に始まったといわれていますが、十五夜の月見が盛んになったのは、平安時代に貴族の間に広まり、一般の人が十五夜を楽しむようになったのは、江戸時代に入ってからだといわれます。当日の給食には、十五夜献立として「けんちん汁」も出されます。行事食と一緒に、大切にしたい日本の伝統文化の1つですね。



豊南小児童の「よさ」 どんなところ？

映っているのでしょうか。あるいは、改めてお子さんの姿を思い返してみると、「頑張っている（頑張ろうとしている）こと」「よい習慣になっていること」などが浮かび上がってくるかもしれませんね。例えば、「**そういえば、うちの子も〇〇ができるようになってきたかな**」「**あの子は弟や妹の面倒をよく見てくれているな**」「**うちの子、暑期中、毎日頑張っているかも**」という具合に。ちょっとしたこともかもしれませんが、そんなときは、折を見て「**I (アイ) メッセージ**」で気持ちを伝えてあげると子供の自信につながるのではないかと思います。「**お母さん(お父さん)は、あなたの〇〇なところ、すごいと思うよ**」「**〇〇さん、いつも〇〇してくれてありがとう。助かるよ**」などです。この一言で、子供たちは、家族に認められているという安心感や家族のために役に立っているという自己有用感を得ることができます。そして、それが毎日学校へ向かうエネルギーの源になるのです。

やさしさ

- ・困っている友達を気遣うことができる
- ・挨拶できる子が増えてきた
- ・素直なところ
- ・自分の仕事をしっかりやる子が多い
- ・進んで手伝いをする



かしこさ

- ・興味のある学習に意欲的に取り組む
- ・タブレットを使うことで文章量が増えた
- ・課題にまじめに取り組む
- ・授業中、よいつづやきがある
- ・教え合い、学び合うことができる
- ・概ね基本的な学習習慣が身に付いている

たくましさ

- ・積極的に体育の授業に取り組む
- ・休み時間に積極的に校庭で遊ぶ
- ・しっかり歩いて登校している



◇ PTA 奉仕活動 ◇

8月24日(土)、PTA主催の奉仕活動が行われました。早朝から多くの保護者の皆様がご参加くださり、子供たちと一緒に、草取りや高所の窓ふき、トイレ清掃など、普段は十分に時間をかけられないところを綺麗にしてくださいました。夏休み明け、子供たちが、気持ちのよい環境で学校生活を送ることができ感謝いたします。

係の皆様には、事前の準備や後片付け等、大変お世話になりました。ありがとうございました。

◇ 4年SDGs出前授業 ◇ -自分たちの将来のために-

4年生の子供たちが、近隣の企業のご支援により、SDGsの理解や実践に向けた意識を高める授業に取り組みました。SDGsには17の具体的な持続可能な開発目標が設定されています。子供たちもよく目しているものです。でも、自分たちの考えや行動が1つ1つの目標にどのようにつながっているのかを知識として身に付け、行動の根拠として考えるまでには深まっていなかったかもしれません。今回の授業は、改めて考えを深めるきっかけを与えてくれた授業となりました。



「植物を育てる」「鉛筆を最後まで使う」「トイレを大切に使う」「読書をする」「ごみを分別する」「いじめや差別をしない」「相手を思いやる」など、普段の自分たちの行動が、どのようにSDGsにつながっているのかを友達と話し合いながら考えます。「こういうことも言える



ね。」「こんなときもあるよ。」とストーリーを考えていくことで、1つ1つの行動や考えがいろいろなSDGsにつながっていることが分かり、それらを大切にしていけることが自分たちの将来を豊かにし、将来の夢の実現につながっていることを学びました。

◇ いじめゼロ強調月間 ◇ -やめようよ あなたの勇気で いじめゼロ 笑顔あふれる 豊南小-

今月は「いじめゼロ強調月間」です。学校では、児童会中心に作成したスローガンを念頭に、児童、先生、一人一人が「いじめをしない」「いじめに負けない」「いじめを許さない」と、努力しているところです。

9月5日(木)には、校長が絵本の読み聞かせをしました。松谷みよ子さんの「わたしのいもうと」です。この本は、「私の妹の話を聞いてください」と、松谷さんの手元に届いた1通の手紙(実話)をもと書かれたもので1987年に発表されています。いじめは、人の心を深く傷つけ、時に命をも奪い、家族を悲しませる絶対に許せない行為であることが強く心に刺さります。そして、送られてきた手紙には、「自分より弱いものをいじめる。自分と同じでないものを許さない。そうした差別こそが戦争へつながるのではないか。」と、訴えが続いたということです。— 子供たちの感想をいくつか紹介します。

- いじめた人は忘れていても、いじめをされた人はずっと忘れない。いじめは絶対にしてはいけない。
- (絵本の)妹が一人で悩まずに家の人に話すことができれば、変わっていたかもしれない。
- いじめを受けた人は、ずっと心の中に大きな傷があると思う。
- 相手の気持ちを考えて、みんな平等に接したいと思った。
- とても心が悲しくなった。言葉遣いに気を付けて、見て見ぬふりをしないようにしていきたい。
- すごくつらいと思った。実際にあったお話でびっくりした。このようなことのない世界にしたい。
- 軽い気持ちかもしれないけれど、すごく傷ついてしまっている。いじめは絶対にやってはいけない。
- される側からすると、ちょっとした悪口でもとてもつらいということが分かった。
- 実際にあった話と聞いて、いじめの恐ろしさを改めて実感した。
- 「ひっそりと死にました」という言葉に、いじめの残酷さを思い知らされた。
- ふざけてでも、悪口を言ってしまったりして、誰かの命が奪われるのはすごく悲しいと思った。
- いじめは、いじめをした自分も相手の人生も変えてしまう。知らんぷりもしてはいけない。
- いじめられたからって仕返しをしてはいけない。いじめの繰り返しになるから。
- 時間がたってもいじめの後遺症は残ってしまう。誰か一人でも寄り添ってあげることができれば。
- 「いじめは絶対にしてはいけない」「相手の気持ちを理解することが大切」と、改めて思った。
- 改めて「いじめ」は怖いと感じた。普段の生活で気を付けたい。「見て見ぬふりをしない」「相手の気持ちを考えて行動する」を意識することが大切だと学んだ。
- いじめをされた人の心の傷を癒すのは簡単なことではない。
- いじめをやめていくには、友達に助けを求めたり、家族や先生などに相談したりしていきたいと思った。
- いじめを見て、見ぬふりをすると、その人もいじめている側になってしまうのではないかと考えた。